



さくら市

YearBook
2019

さくら市イヤーブックは文星芸術大学と連携して、情景や歴史を紹介しながらさくら市の記憶を記録する「メモリアルフォトブック」として発行しました。今回は、さくら市の押上、蒲須坂から鷺宿、穂積までの地域で作成いたしました。写真を見て、撮影場所を探す楽しさを味わってみてください。

今回の2019年版では、田んぼの中を走る列車、夕暮れ時に灯る家の明かり、時を重ねた神社やお寺など… 現在だけれど、どこか懐かしさを感じる風景を多く見ることができました。この情景が、次の世代にも受け継がれていってほしいと思います。

2019年の蒲須坂、鷺宿、穂積







さくら

「さくら市」の市名には「桜の花のように美しいまち」との思いが込められています。
地域には、人々に親しまれ守られている桜が数多くあります。



りんご狩り

喜連川の丘陵には、いくつかのりんご園があります。1989(昭和56)年に喜連川で温泉湧出した際、喜連川の特産品にしようとこの地域でのりんご栽培が始まりました。
取材をした平山りんご園では、ふじや秋映、シナノスイートなど様々な種類を栽培していて、りんご狩りも楽しめます。



長久保駅の駅名標と線路（押上小学校校庭）

かつて、押上小学校の近くに「長久保駅」という駅がありました。1886(明治19)年に旧東北本線が開通した当初、宇都宮からまっすぐ北上、鬼怒川を渡り押上小学校のあるあたりを通り、矢板につながっていました。宇都宮駅を出て次の駅が長久保駅でした。その後、路線の変更があり、氏家駅と蒲須坂駅が誕生、長久保駅はわずか10年で営業を終了しました。
現在、校内には長久保駅の駅名標と線路が再現されています。







ぼうじば

十五夜と十三夜に行われている豊作祈願の伝統行事。子供たちが近所の家を回り各家の軒先で「ぼうじばあたれ」と歌いながら藁で作った鉄砲(ぼうじば)で地面を叩きます。蒲須坂地区では地域の人々が子供たちにぼうじばの作り方を教えるなど、伝統が受け継がれています。



松の祭典（穂積のマツ）

旧穂積小学校にあるさくら市の指定天然記念物のアカマツ。樹齢が250年以上とも言われています。枝が四方に伸び、傘を広げた姿をしており、栃木の名木百選にも選ばれています。
10月には地元住民などの実行委員会が「ほづみ松の祭典 & 竹灯籠まつり」を開催しました。





A	B
C	D

馬頭観音 [A]

馬の保護神として江戸時代に広く信仰されました。特に街道沿いでは馬頭観音を祀った石碑が多く見られます。旅の安全を願うため、または馬の供養のために建立されています。馬の存在が私たちの生活の身近にあった名残です。

四脚門 (鷺宿下原 問屋) [B]

三島神社 [C]

蒲須坂にある神社。江戸時代初期、蒲須坂新田村が開発された際にこの地域の鎮守としてまつられました。もともとは道路の反対側にまつられていたが、明治時代に陸羽街道開発や荒川橋梁架設の際に現在の場所に移されたと伝えられています。

蓮の池 [D]

下河戸にあるため池に蓮が植えられています。夏には、蓮の花を撮影する人が訪れる穴場スポットとなっています。



E	F	G
H	I	J

普濟寺 [E]

金枝にある真言宗のお寺。室町時代に創建されました。1810(文化7)年、火災により本堂が全焼しますが、1836(天保7)年に本堂を再建、本尊大日如来と安置したと伝えられています。

水神社 [F]

押上の鎮守。1774(安永3)年に建築された本殿はさくら市指定文化財になっています。拝殿の天井には喜連川藩のお抱え絵師・牧野牧陵が描いた龍があります。

鷺宮神社 [G]

古くから鷺宿を守ってきた神社です。内川の近くに鎮座しています。かつては、広大な境内だったそうですが、内川の洪水などで削られてしまい、現在の敷地になったと伝えられています。境内には江戸時代に造られた石灯籠などが見られます。

温泉神社 [H]

下河戸に鎮座する神社。

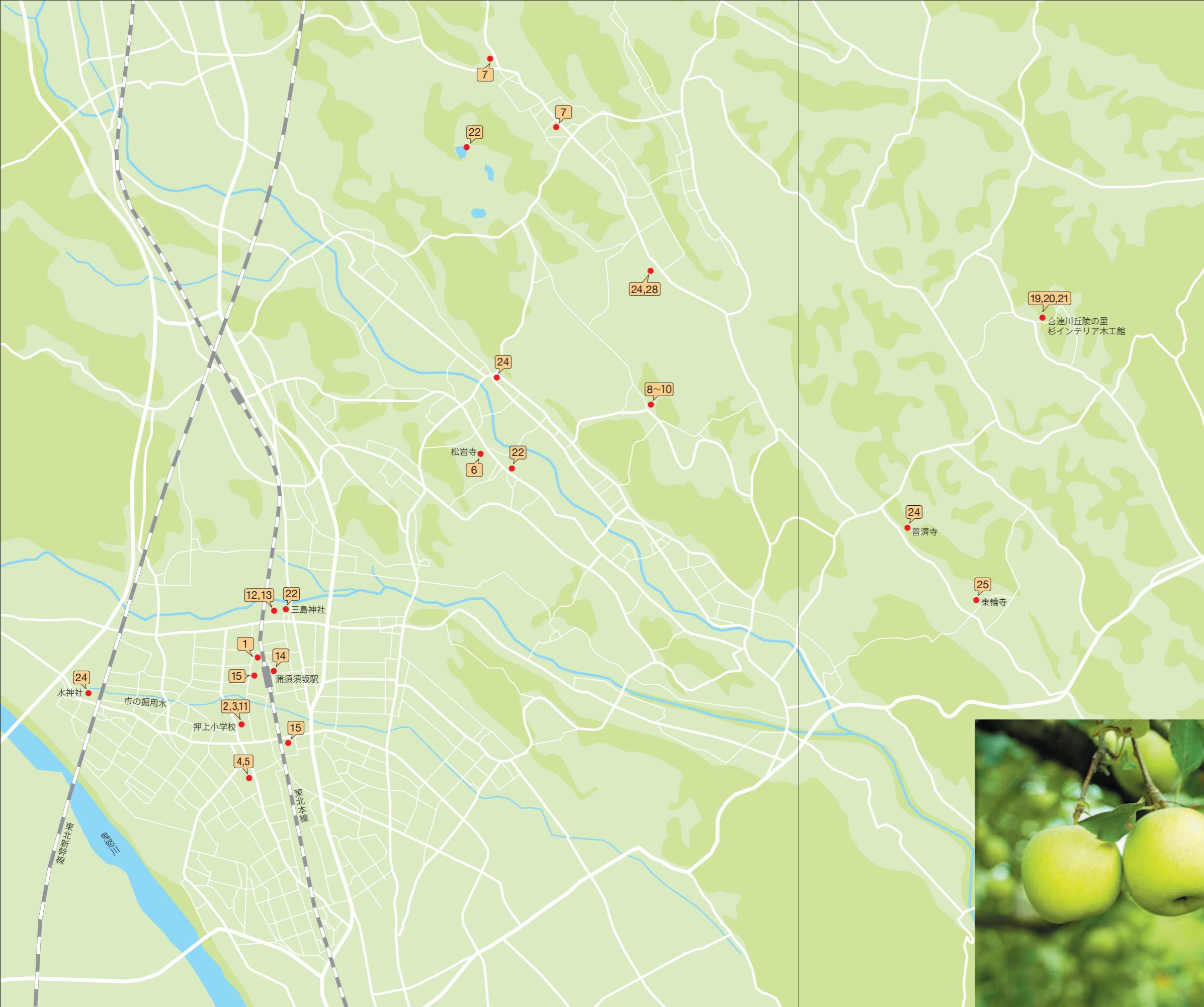
天神社 [I]

押上小学校の近くの神社で、学問の神「天神様」をまつっています。

東輪寺 [J]

鹿子畑にある真言宗のお寺。境内では、ロウバイやミズバショウなど季節を通じての色々な花を見る事ができ、花の寺とも称されています。夏には様々な種類の蓮の花が咲き、多くの人々が訪れています。





さくら市

Yearbook 2019

0 掲載ページ番号

発行：さくら市教育委員会生涯学習課
〒329-1492 栃木県さくら市喜連川 4420-1
TEL 028 (686) 6621 FAX 028 (686) 5368
2020（令和2）年3月発行

制作：文星芸術大学
板橋康仁 江野耕治 篠崎笙太郎 清水さつき 高内泰任 水本和宏

この本は官学連携や若者のアイディア、感性を生かした事業として
さくら市と文星芸術大学が製作をおこなったものです



蒲須坂、鶯宿、穗積

